



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年9月1日

9月号・第128号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



φ φ φ φ φ

Contents

φ φ φ φ φ

チェコから来ましたペトルです……………	①	美味旬感・奈良学&難読野菜名クイズ…………	⑫
リレー随筆・お元気ですか!……………	②	自然俳句……………	⑬
Monthly Repo.ならやま……………	③	癒しの散歩道&ならやま茶論……………	⑭
里山の今・自然観察レポ……………	④	青垣春秋……………	⑮
里山の今・ならやまトピックス……………	⑤	翁舞……………	⑯
「昆虫観察と自然工作」アンケート…………	⑦	ならやま景観整備&情報BOX……………	⑰
やさしい昆虫講座②……………	⑨	行事例会案内……………	⑱
ヤゴ飼育奮戦記……………	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記…………	⑲
鳥シリーズ&地域情報……………	⑪		

チェコから 来ました ペトルです

2週間のショートステイで我が家に預かったチェコからの客人、ペトル君をならやまベースキャンプに案内した。本名、ペトル・マツナウエル、身長187cm、21歳にして若干幼さを感じさせる長身の好青年である。昨年度のチェコ日友好協会主催日本語弁論大会上級者コースに見事優勝。副賞のチェコ・日本間往復チケットをゲットし、それが今来日日の切っ掛けと成った。



子供の頃知り合った日本人の友達の影響で日本に興味を持ち、特に「ドラゴンボール」を始めとする日本のアニメからは、色々な日本語を学んだ様である。実際、その漫画から知った言葉と後で分かったが、二月堂関伽井屋に張られた榊と注連縄を見て、「これは結界ですか？」と聞かれた時には、こちらも度肝を抜かれた。奈良滞在中、市内観光はもとより、落語、講談、能、箏、書道等多くの日本文化に触れ、大仏殿のお身拭い、燈花会も見学、充実した毎日を過ごした。そうした彼の日本の印象は、老若男女を問わず全ての日本人が、何事においても非常に行動的であると言う事であった。



特にならやまでは、ソバの種撒きなど実際の活動に参加し、その活動の楽しさを自身の肌で実感した様である。打ち上げ時の感想で彼自身が述べた事であるが、人々の互いの協力で農地を再生し、これだけの景観を維持している事に深く感動したと言う。また彼の眼には、参加者全員が各自選択した仕事に責任を持ち、積極的に当たっている姿が特別なものに写った様である。

彼からは他にも日本称賛の話が次々と出た。はじめは彼の買いかぶりとの思いが強かった。しかし、彼の素直な意見を聞いている内、日本人には海外の人が羨ましがれる程の誠実さが有り、伝統・文化に育まれた慎ましい国民性が有る事に、徐々に気付かされて行った。悪い面ばかりを探すのではなく、良い面を見つけ、それを素直に認識し、明日への活力に繋げる事の大切さを改めて知った思いである。



(文責 辻本信一)



夏ばて知らずの「人と自然の会」

田中 克彦

編集チームから夏休みの宿題を頂き有難う御座います。

今年も暑い暑すぎる、ボンボン育ちの？小生には心身ともに酷夏に堪えるのか。節電力の事も忘れロンドン五輪に見入る毎日、日本人の活躍は暑気払いか。寝不足がみ、目を開き「ガンバレ日本」に感謝。元気貰って有難う。

大阪市内で生まれ育ち、子供の頃の小さな自然との関わりしか無い自分に、佐保自然の森「ならやま」は大阪市内と比べれば 天国と地獄の違い有り 自然に触れ合っている実感があります。市街地に残る里山、田畑、池、その自然がドンドン破壊され、自然を残す事の難しい時代に素晴らしい自然を残す手助けが出来るといいなあとと思っています。

「ならやま」の仲間は、異常に元気、元気すぎか？

古川祐司先輩の口癖、60代は青年部、70代になってやっとシニア？分かる分かる、「ガンバレならやま」 身近な自然に関心を持っている中高年の方々の経験と努力が里山の再生に貢献しています。人々は植物のもたらす恵みを糧として、自然と共に生きて来ました。里山から学ぶ事は実に多いものです。

彩の森の植樹、エゴノキ、イロハモミジ、ヤマザクラ、ヤクシマオナガカエデ等の木々は此の暑さにも負けず生育していますか。体力、気力、整えて、是からも「人と自然の会」で、自然と触れ合いを続けて行きたいと思っています。



佐保台放課後子供教室

平井 隆三

ヤッター、こっちこっち、子ども達の歓声が響きます。

佐保台小学校の放課後教室が始まったのは平成21年からでした。そこへ放課後教室の発起人の方が来られ協力を要請されました。奈良の子ども達の体力が、非常に低下していることが話題になっていた時期でしたので、体力作りの手伝いできればと引き受けたのです。この事業はグリーンサポートから、佐保台夢サポートへと進化していきます。夢サポートは当初100%グリーンサポートのメンバーでした。地域の中から新しい仲間を増やしていくのは、なかなか大変なことです。今ではその比率は70%くらいになっています。

昨年ついに佐保台小学校の運営委員長をする羽目になってしまいました。もとより教育関係には無縁の人間でした。そんな自分でもできることは何かと考えました。「知恵のないものは知恵のある人に頼るべし。」奈良・人と自然の会は、まさに知恵の宝庫です。校庭の植物観察、昆虫観察、芋ほり体験等、当会には大変お世話になっています。また正規の授業の一環としての稲作体験は、多くの方のご努力のお陰で、奈良市のなかでもきわめて異色な授業となっています。今年はその延長線で、京大で米の研究をされている佐保台在任の先生に、お米にまつわる話を12月に計画しています。

子どもたちがますます農業やお米に関心を寄せてくれることを願っています。

さて、私はといいますと最近顔の色艶がよくなった。「何かいいことあるんちゃう？」と冷かされる有様です。活動を進めていく上では人間関係が一番大切ですが、ありがたいことに若いお母さん方と携帯メールでやりとりし、顔突き合わせて子どもの未来を語っていると、自然にエネルギーをもらっているからだと思います。

来年は万青の方中心に、人生体験や職業体験を語ってもらうイベントもしてはどうかなど、夢はどんどん広がるばかりです。

Monthly Rep. ならやま

◆7/26 (木) 晴れ 45人+1人

雑草の生育スピードが速くて草刈り作業が追いつかない。彩の森、サツマイモ畑、落花生畑、ビオトープ池周囲、花壇周りの草刈りに大車輪をかけた。

里山林の区分ロープがあちらこちらで切れているのでその点検・補修作業を始めたが半分は次回に持ち越した。



カシナガのトラップ調査は、先住民の蚊との戦いを行っていた。

トラップ犠牲者？第1号 アオダイショウのお子様。新たに手入れを予定している仮称「第5地区」の侵入路の整備を行った。

シニア自然大学から1名作業に参加。

◆7/27 (金) 晴れ 3人+4人

シニア自然大学水生生物科によるビオトープ池の生物調査が行われ、当会からも応援に入った。

◆8/2 (木) 晴れ 45人

ソバクラブのメンバーは自家製の美味しいソバを打つため、ソバ畑の準備を始めた。炎天下の中、汗をいっぱいかいて種まき畑の準備が整った。

彩の森、自転車道、ならやま会館前、ビオトープ池周り等、大勢の仲間たちが草刈りに汗を流し、終了後八木さんから機械のメンテナンスの講習が行われた。

カシナガのトラップで問題となっているナガキクイムシが1匹捕まった。いよいよならやまにもナラ枯れが始まるのではないかと心配されたが、森林総合研究所の鑑定の結果、別種と判明し一安心。

ジャコウアゲハの食草「ウマノスズクサ」が誤って刈り取られる事故があったので、急遽その場所の囲い込みと看板を立てた。



この蝶の幼虫はこの植物しか食べないので、十分な餌を確保して、もっと増やしたいと頑張っ

ていますので協力方をよろしく。

ビオトープ池ではザリガニが増え、他の生物に悪影響を与えるので、池の中を掬ってアオミドロとともに強制退去処分。

◆8/9 (木) 晴れ 45人+2人

8月26日のイベントに使うバームクーヘン焼き用の竹の切り出しとその準備。

10月にはたくさんの実が稔ることを期待してソバの播種。

日本語の会話だけで



はなく、読み書きも出来る日本最員のチェコ人の来訪。活動現場を自分も実践しながら見学してもらった。

新池ではバラタナゴがうまく定着し、幼魚もたくさん見られるようになった。



会報でのクイズ正解者にならやま特産のかぼちゃ、ナスの進呈。(文責：木村 裕)

里山の今

自然観察レポ

ペタキン日記

羽尻 崇

7月になって水量が減ってきたのと水温の上昇で藻が増えてきて水中の酸素量が夜は少なくなると北川先生から聞き、プランターの中や池の底の泥を何度か除去することになった。

ザリガニは大型が減ったが、逆に今年生まれたばかりの小さなものが増えてきた。

◆7/31 (火) 猛暑

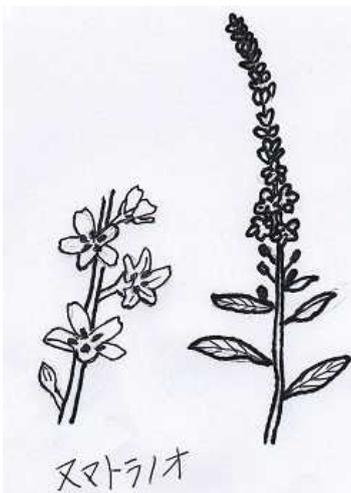
前田君からバラタナゴの稚魚を見たとの報告を受け、夕方行ってみると、池の上段から下段の水の流れがあるところで、体長1cmくらいの稚魚が、メダカのように群れを成して泳いでいた。その後8月になってからも何度も稚魚を見たが、次第に大きくなってきているようだ。

ならやま花だより

山中 笙子

◆8/16 (木)

9日の活動日、里山は水不足で草花もうな



だれ気味でしたが、その後の雷雨で元気を取り戻しました。

ヌマトラノオ(サクラソウ科)は今年も湿地で他の草に紛れて直立した涼やかな白い花穂をたくさん覗かせています。

名前は長い花穂を虎の尾に見立て湿地に咲くことから付いたものです。

似たオカトラノオは草地に生え花穂が垂れま

す。猛暑の夏とは言え暦の上では立秋が過ぎ秋の草花も見られるようになりました。

【草花】 イヌビユ、タカサブロウ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ、メマツヨイグサ、メヒシバ、オヒシバ、オカトラノオ、スベリヒユ、オオニシキソウ、コマツナギ、イヌタデ、ベニバナボロギク、オオアレチノギク、ヨウシュヤマゴボウ、エノコログサ

【木の花】 コシアブラ、ムラサキシキブ

【木の実】 オニグルミ、シバグリ、カキノキヒサカキ、ネズ

【花壇】 オミナエシ、ハナトラノオ、コスモス

【ピオトープ付近】 ハス、ヌマトラノオ、アメリカアゼナ、カヤツリグサ

ならやま鳥だより

小田 久美子

◆8/13 (月)

菊川さんと二人で廻りました。7種20羽と少ない日でした。

7月下旬、数羽巣立ちを確認後のシジュウカラの巣をもらいました。普通は掌サイズのものですが、マッチと比べれば如何に大きいかが判ります。まだ13ヶ残っていてこんなに子沢山な巣は大変珍しいものです。



【9月のならやまバードウォッチング】

9/10(月) 9:00 冬時間になりました。

里山の今

ならやまトピックス
菊川 年明

カワセミ

7月27日(金)、シニア自然大学校水生生物科の人たちによるビオトープ池の生物調査があり、お手伝いに出ました。その際、東池のところに用があって出向きましたところ、カワセミがきていて、四囲に巡らせたロープ上の西側の中ほどのところに止まり、池の面を見つめていました。



少し見ていますと水中の魚を捕るような姿勢で池に飛び込み、一瞬の後にはまたロープに戻りました。この池に今のところカワセミが餌にするような魚はいませんので不思議な思いでした。

手持ちのコンパクトデジカメで止まっている様子を撮影し、帰宅後にプリントして見ますと、くちばしにトンボらしいものをくわえている姿が写っていました。当時、池の水面にはシオカラトンボなどが飛び回っていましたので、そのトンボを狙って飛び立ち、水中にまで突っ込んだものと思われます。

カワセミは魚だけでなくカエルなども餌にすることは知っていましたが、トンボのような昆虫も狙うことは知りませんでした。珍しい光景でした。

ジャコウアゲハ

翅の色は、オスは黒色、メスは薄墨色で、ともに後翅の縁に赤い斑紋がある。(写真はメス) 一見クロアゲハに似ている。



特徴は、第1にアゲハチョウ類の中で最も緩やかに飛ぶことである。2番目は野鳥が捕食しないことである。悠然と飛ぶという特徴は野鳥に捕食されないからだと言われている。3番目はオスは麝香に似た香りを発するとされており、これが名前の由来である。

野鳥に捕食されない理由はこのチョウの幼虫の食草がウマノスズクサ(近縁種を含む)という蔓性の有毒植物で、その毒を体内に蓄えているためである。



本種の幼虫が摂食するウマノスズクサは生えているところが限られているので、本種の生息域も局限され、目にすることが少ないチョウである。ならやまの近くでウマノスズクサが生え、本種が棲息する場所として佐保川堤の一部が知られているが、その保護が図られていないの



で、一昨年ならやまにウマノスズクサの根茎を移植し、生育に合わせて本種の幼虫の一部も移した。

その後、失敗を繰り返しつつも今年はウマノスズクサも繁茂し、本種も定着が期待できるようになった。遠からずならやまがジャコウアゲハの舞う里になることも夢ではないところまで漕ぎつけている。

里山の今

ならやまトピックス
(続) 菊川 年明

* ジャコウアゲハ幼虫の意外な行動 *

8月も下旬になったある日、ならやまへジャコウアゲハの幼虫の生育状況や蛹の様子を観察するべく出向いたところ、前日まであった食草のウマノズクサは一夜にして姿を消していた。見ると、ウマノズクサの茎はみな根元近くで切られている。幼虫たちは僅かに残る葉にしがみついたり、残った茎を齧っているものなど悲惨な状態であった。

茎の切り口を見ると刃物を使った様子はなく、どう見ても幼虫が食いちぎったものと思われた。本種は幼虫も含めて、食草(幼虫の)のウマノズクサの有毒成分を体内に蓄えているので、親子いずれも野鳥に捕食されないという特色を持っている。

考えれば、野鳥というのは大方の昆虫にとって天敵の最たるものである。本種のメスは少なくとも2桁の数の卵を産むであろうから、寄生蜂等にやられるにしても、野鳥の捕食を免れることを考慮すれば発生頭数をかなり抑制しないとどんどん増えて、生育場所と分量の局限されているウマノズクサは枯渇してしまうであろう。

多分、そのようなことから自然の摂理として終齢幼虫は蛹化の前に後続を絶つため食草を根元から切り取ってしまうのではなかろうか。そういう説もあるそうである。しかし、最近は有力な他説もあるらしい。

また、幼虫は共食いをするとか、蛹化したばかりの柔らかい蛹を食べるとも言われている。そうだとすれば、これは残酷に見えるが、糧道を絶たれた幼虫のやむを得ない行動ではないだろうか。

7月の終わり頃にもたいへん茂って喜んでいたウマノズクサが根元から切られたことがあった。このときは事情をよく知らない人の行いだと思っていたが、どうやら、幼虫の仕業だったようである。

* ツマグロヒョウモン

ツマグロヒョウモンは漢字で書くと名前の由来がすぐわかる。棲黒豹紋である。オレンジ色基調の翅に棲(翅端)が紫黒色でヒョウのような斑紋のあるチョウという意味である。ただし、翅端が紫黒色なのはメスだけで、オスの翅は全体がオレンジ色のヒョウ紋一色である。

ならやまでは春かなり早くから晩秋まで見られるおなじみのチョウである。このチョウは、元々は南方系のチョウで、かつては九州などでは普通種であったが近畿地方ではめったに見ることのできない種類であった。私の少年期、昭和10年代のことであるが、大阪府下でこのチョウを採集したときの喜びは今でもよく憶えており、その標本は戦災に遭うまで宝物のように大切にしていた。

昭和の終わり頃には近畿地方でも散見されるようになり、東海地方でも見られるようになったと伝えられていた。しかし、この時期、関東地方ではまだ全く見られないチョウでもあった。

このチョウの食草はスミレ科の植物で、園芸品種のパンジーなどの広まりとともに棲息域が北へ広がったと言われており、温暖化も後押ししているらしい。そして近年は関東地方でも普通に見られるようになってきている。

このチョウは、ならやまの花畑にいつも来ているが、ある時見ていると、オスのチョウが近くにやってきたスズメを追い払い、後を追っていたことがあった。大変気の強い一面のあるのに驚いた。



★『山と森林の月間』協賛行事★

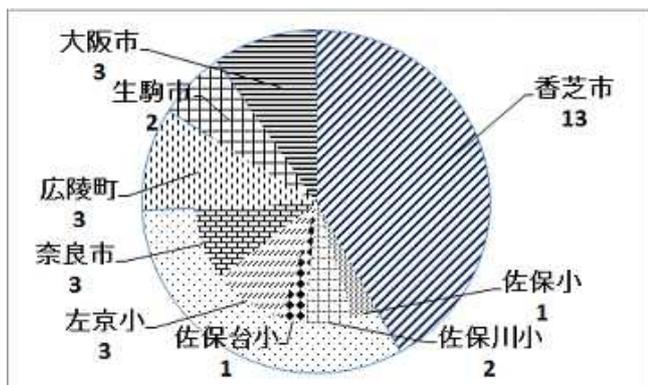
【昆虫観察と自然工作イベント・アンケート】

羽尻 崇

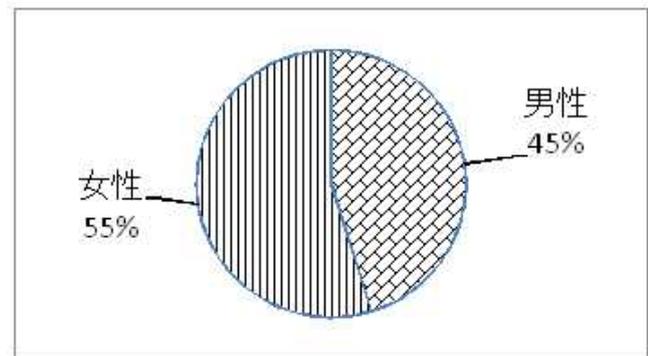
7月21日(土)に開催した「ならやまの昆虫観察と自然工作」は、20家族(児童・園児)30名、保護者20名で総計50名という多数の参加があり、例年とは比較にならない充実したイベントとなった。

今後、イベントを企画する上で参考とするために、アンケート結果を集約してみた。

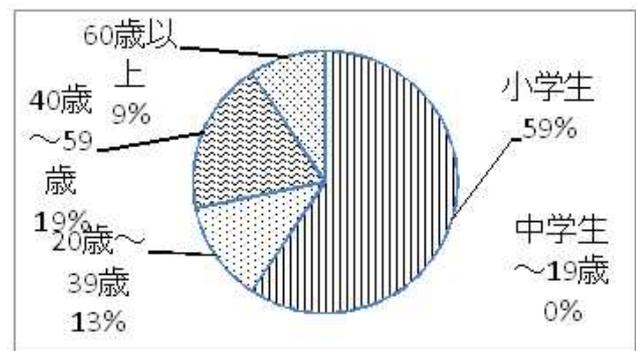
問1 住所



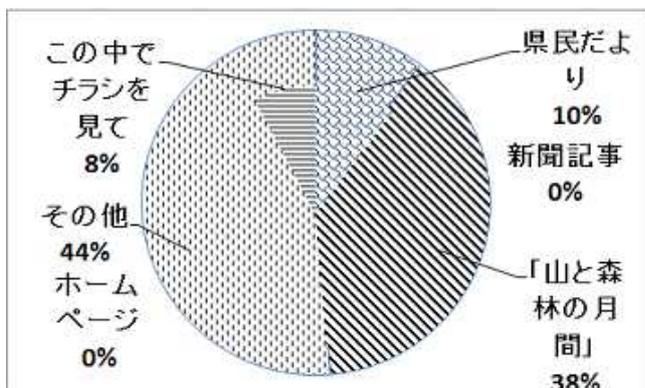
問2 性別



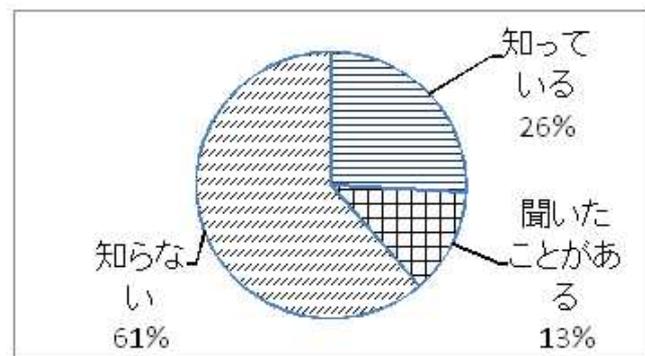
問3 年齢



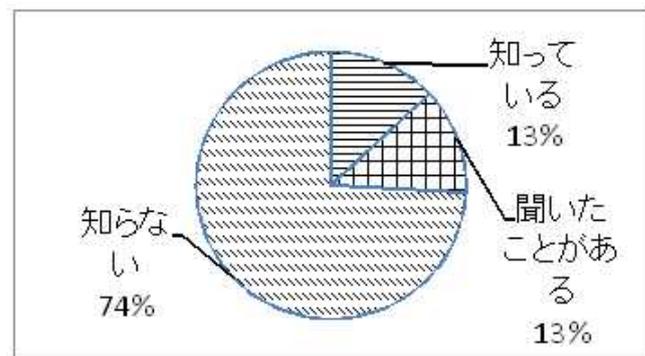
問4 このイベントは何で知りましたか！



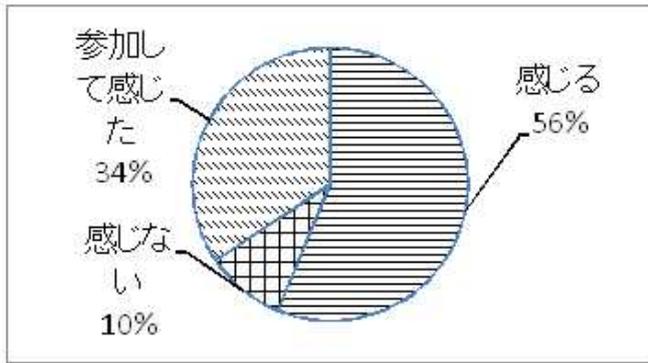
問5 <山と森林の月間>を知っていましたか！



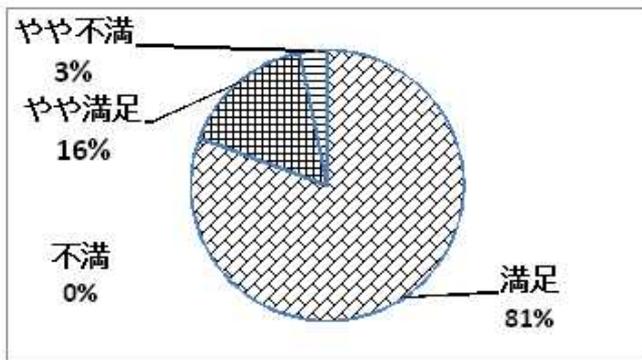
問6 奈良県森林環境税を知っていましたか！



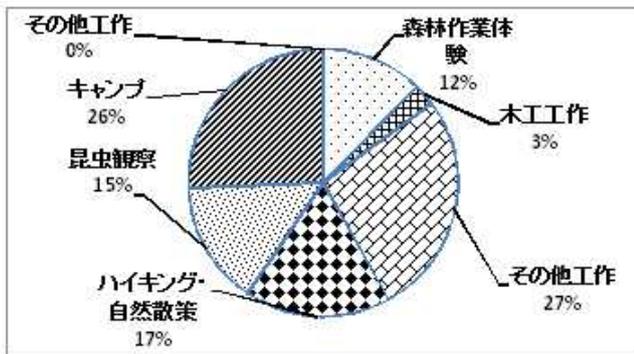
問7 山・森林・木に親しみを感じますか！



問8 このイベントの感想は！



問9 山や森林に親しむイベントのうち、参加してみたいものは！



問10 今日のイベントについて、色々と感じられたことをお聞かせください！

【子供たちの感想】

- はじめて来たけれど、いろんな虫や植物なども見つけれられたし、素晴らしいところだった。
- 数多くの虫がいたので、楽しかった。
- いろんな虫をつかまえることができ、楽しかった。
- 虫とりがとてもおもしろかった。
- 町に近い所なのに、素晴らしい環境だった。
- とてもよかったです。
- すごくたのしかったし、うれしかったです。
- 楽しかったです。また、このようなイベントがあれば、必ず来たいです。
- お昼にいただいた「そうめん」が、とてもおいしかったです。

【保護者の方の感想】

- ◆ 「山と森林の月間のチラシは、夏休みの活動の案内として毎年楽しみにしています。」
- ◆ 「人と自然の会」の活動も奈良市内の平城ニュータウンに浸透してきているように思います。
- ◆ とても楽しかったです。
- ◆ 自然に親しめ、とても楽しかったです。
- ◆ 説明などやさしく接して下さりうれしかった。
- ◆ 子供の頃を思い出して楽しかったです。ダッチオープンで焼かれたジャガイモの味には感動しました。
- ◆ 色々ありがとうございました。また、次の機会にも是非参加したいです。



やさしい昆虫講座②③

木村 裕



秋の夜長を楽しみましょう

暑い夏も終わり、皆様に夜長に良い声をお聞かせする鳴く虫たちのコンサートの季節となりました。クツワムシさん、スズムシさん、コオロギさん、みなさん楽器の手入れにおおわらわです。基本的には左右の前翅の付け根にある40～50個のヤスリをすり合わせて音を出しますが、手入れが悪くて良い音が出ないと観衆（女性たち）が集まってくれませんが、あだやおろそかに出来ません。

バッタ族と私たちキリギリス族とは緑色をしているところは似ていますが、私たちは長い立派な髭を持っていて、体全体に艶があります。

昼間の主役はキリギリスさんです。7月終わり頃から暑さにもめげず、草むらで「ギース・チョン」とギターを弾いています。体が大きくてやや太り気味ですが、うまく草の陰に隠れていますので、ちょっとやそつとでは見つかることはありません。草むらの中で「ジー・ジー・ジー」と鳴いている小さな仲間はササキリさんです。草むら内にかさがさと子供たちが網を持って分け入ってくると、あわてて真っ先に逃げ出すのは彼らです。

夜の主役となるクツワムシさん、ツユムシさん、ウマオイさんは全国的に名前が知れ渡っている有名人（虫）ですが、みなさんお顔をご存知ですか？ 99.99%の方は知らないと思います。明るい表舞台には立たず、いつも声のみを聞かせています。



夜の主役に忘れてはならないのがコオロギ族です。キリギリス族に比べ、体がやや平たいのが特徴です。皆さんにも馴染みが深いのは、やや色が黒くて、体が丸々と太ったエンマコオロギさんです。名の通り少し怖い顔つきをしていますが「コロロ・・・リー」と良い声で鳴きます。



ツツレサセコオロギさんは体型が良く似ていますが、大きさはかなり小さいです。どちらも枯れ草が積んであるところでしばしばコンサートを開いています。顔の前面がナイフで切ったかのように平面になっているのはオカメコオロギさんか、ミツカドコオロギさんで同じような所にいます。

「リーン・リーン」と鳴くスズムシさんはあちらこちらのお屋敷で飼われていて、飼い犬ならぬ飼い虫です、知らない人はいないと思います。黒い体に白い長い触角があるのが特徴です。しかし野外でこの虫を見つけることはすくないでしょう。

不法入国ながら勢力を伸ばしているのがアオマツムシさんで



す。緑色の大型の虫で庭木や街路樹の上で「チリー・チリー」と夕方よく鳴いています。在来のマツムシさんは褐色でいたって地味な虫で姿を見た人はほとんどないと思います。

最後にオケラさんは本当に鳴くのでしょうか？ やはり翅をすり合わせて「ジー」と地味な声で鳴き、トンネル内で男性・女性間の交信にも利用しています。

ヤゴ飼育奮戦記

守口 京子

7月27日、ならやまでシニア自然大学の水生生物科の生き物調査があり、ヤゴが4匹捕まりました。水生生物科の方が「持って帰る？」と手渡してくれたので、少し迷ったが、菊川さんが「私は写真だけでいいです」と言われたので、持って帰ることにしました。迷ったと言うのは、実はヤゴには苦い経験があるからです。

庭の盥でボウフラよけのために、数年くらい飼っていたヒメダカがこの春遂に絶滅し、5月末近所のメダカ屋で、クロメダカを1匹50円で20匹購入し可愛がっていました。ところが、元気に泳いでいたメダカがだんだん減っていくのです。盥の掃除をしてみると、ヤゴが5匹もいて、メダカをくわえているヤツもいました。1000円も食べた悪いヤツ、ヤゴには恨みがあるのです。幸いにも子メダカが生まれ、今は孫メダカも生まれています



持ち帰ったヤゴを水槽に入れ、餌がわからないので、ジャコと鯉節を入れ、割り箸を立てておきました。翌朝1匹もう羽化していました。ナツアカネでした。♂♀はわかりません。飛び立つのを楽しみに待ちましたが、昼頃、飛ばずに落ちて死にました。体がふにゃふにゃでした。

残り3匹はギンヤンマのようで大中小です。大が中を食べ2匹になってしまいました。

ジャコと鯉節は気に入らないようです。そこで盥で数年育っているミナミヌマエビをやることにしました。これは山城町不動川産で、孫と川遊びして採ってきてずっといます

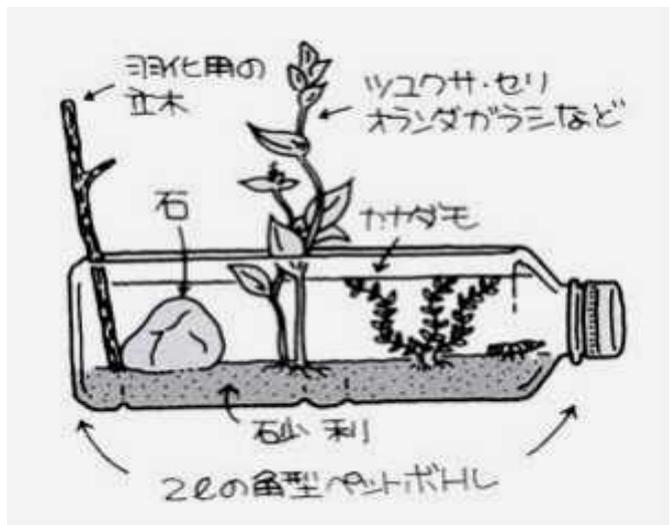
ちょうど息子が帰省していて、「おかん、エビかわいがってんのんとちゃうん？ヤゴの餌にするてどういうこっちゃ！」と非難轟々。しかし「エビの人生はヤゴの栄養になって、他人に役立って終わるねんから立派なもんや。これが生態系や」と、くじけずエビをやり続けています。



8月3日朝、窓ガラスでバタバタとギンヤンマ♂が飛んでいました。

大のヤゴが羽化しました。平さんはヤゴの羽化を見守るため、夜中に起きて観察したそうですが、私にはそんな根性はありません。

写真撮影の後、窓を開けると飛んで行きました。残るは1匹の小ヤゴのみです。平さんから、餌には釣り屋さんのミミズがいいと聞いていましたが、水草の鉢に、ボウフラが泳いでいるのを見つけ、それをやることにしました。ヤゴのまま冬を越すものもいるそうなので、この子はいつまで面倒見よかなと思案中です。



室内での飼育例

鳥シリーズ



近くて遠い カラスのお話し

小田久美子

あちこちから拾ったカラス三題話

《フクロウに黒くされる》フクロウは昔染物屋をしていて、鳥たちの注文に応じていろんな色に染めてやっていました。カラスが一番美しい色にと頼んだら、フクロウはああでもないこうでもない、いろいろ工夫し染めていたら真っ黒になってしまいました。カラスは大変怒りましたがもう後の祭りです。それでカラスはフクロウを恨み、今でもフクロウを見つけると追い掛け回す【烏梟(ウカウ)の仲】なのだそうです。フクロウがカラスの活動する昼間はひっそり身を隠し夜になってから活動し始めるのはそのため、「糊つけ干せ」と鳴くのはかつて染物屋をしていた時の口癖だとか。

《生ゴミでの採餌》江戸時代、シーボルトは日記の中で「江戸はカラスの町である」と書き、明治に東京大学の初代動物学教授だった、

E・S・モースも日記に「カラスは犬・猫・鶏・鳩などと同様に親切に取り扱われ人馴れしている」と驚いています。

《カラスの邪淫で出家》薬師寺の景戒著『日本霊異記(正式名-日本国現報善悪霊異記)』(聖武天皇の時代)に和泉国泉郡血沼県主大領家の門の大木にカラスが営巣し、孵化して間もない雛を♀が抱き、♂はせっせと餌を運んでいました。ところが♂が餌探しにでかけている間に他の♂がきて♀と懇ろになり、♀もその♂が気に入ってなんと夫を残して駆け落ちしてしまいました。餌を運んで来た♂は、突然♀がいなくなつて寒さに震えている雛をすぐ暖めてやりました。大領は、♂が餌探しになかなか出かけないのを不審に思って人を登らせて巢内を見させたところ、なんと♂は雛を抱いたまま死んでいたそうです。そのことを知った大領は大層哀しみ、世が嫌になって出家し、行基大徳に師事して後に信蔵(シノゴン)禅師になったのだそうです。



地域情報

ツバメ

(斑鳩)

◆前回に続けてツバメ情報です。8月1日。我が家の近くのガレージの巣の中には産毛で目の開いていない小さなヒナが2羽います。早く生まれたツバメたちはもうツバメの時に集まり、帰る準備をしているのに・・・10日まだ目が明かず、お母さんの餌を待ちました。早く大きくなってね。

◆8月3日平城旧跡ツバメの罫入り約2万羽、ご近所さんと行きました。毎年感動です！！



(勝田)

美味旬感
ヤマノイモ

昨年の秋にも少し触れているが、やはり秋の味覚の身近な美味というと、ヤマノイモのむかご（球芽）をあげよう。ヤマノイモ科の宿根草で葉が対生についているのが、日本原産のヤマノイモ。ならやまフィールドにもあちこちに蔓を伸ばして、細長いハート型の葉の腋にむかごが育っています。

最も本来はこの根を掘って、芋を食べるのであるが、芋は地中深く曲がりくねっていて大きなものは数メートルにもなります。まず掘るのが困難です。道の駅などでたまに売っていることがあるので、手に入れたらやはりとろろ料理が最高です。下ろす時に手が痒くなるのを防ぐには、酢水を手につけて下ろすとよい。

ヤマノイモはころころの玉になってしまう程ねばりが強いが、黄身を落として月見にしたり、マグロのぶつ切りにかけて山かけにしたり、だし汁でのぼして麦飯にかける麦とろご飯は何杯でもお代わりしたくなる。

拍子木や輪切りにして、わさび醤油や梅醤油をかけきざみ海苔などふりかけたり、海苔で巻いて揚げると酒のよい肴になる。海苔に厚めに塗って揚げ、うなぎのたれを塗ると精



自然をちょっぴり
いただきま〜す!!
西谷 範子

進料理のうなぎの蒲焼に変身する。

昔から滋養強壮によいといわれ、消化を助けるジアスターゼを含む。本物のヤマノイモを入手するのは難しいから、売っているつくね芋やヤマトイモなどで代用してもよい。しかし栽培山芋のむかごは自然のヤマノイモのむかごに比べ、風味も香りも味も全く異なるので、出来るだけ自然のものを手に入れたい。ハイキングなどで見つけるあの真っ黒な艶のあるむかごの食感は、しゃきしゃきとしてヤマノイモの香りと甘味があり、自然の恵みを満喫する。

勿論その場で食べるのが最高であるが、沢山採れた時はむかご飯にしよう。小さいものはそのまま炊き込んでもいいが、大きい粒はけっこう火の通りが悪いので、灰汁か重層を少し入れて茹でてアク抜きをしてから炊くとなお良い。先に十分茹でておき、炊き上がったご飯に混ぜてもいい。どちらにしても時間が経つとアクが出てご飯が黄色くなるので早く食べ切りたい。

少し大粒のむかごを炒めたりして酒の肴にする時も、予め茹でて火を通しておく方がよい。

秋も深まり葉が茶色に枯れるとむかごはぽろぽろと落ちるので、採るのに工夫が要る。でもこれが落ちて地上で芽を出し、新しい株を作っていくのである。

奈良学 & 難読野菜名クイズ



【問1】平城遷都1300年祭開催に伴い、先人の色々な取り組みが判明しました。その一つに、100年前に「平城神宮」の創建計画に携わり、女帝元明天皇の座像を制作し、1907年8月の自身の日記に、「元明天皇陛下ノ御座像新調シテ家内ニ之ヲ安置奉祀シ



朝夕礼拝スル事ニ決心」などと制作の経緯を記していて、平城宮跡の保存運動に尽力した人物は誰でしょうか。

▲元明天皇座像(現存) お答えください。

【問2】次の三つの野菜は、どのような野菜ですか。それぞれのヒントを参考にしてお答えください。①清正人参(加藤清正にちなむ、この別名をもつ) ②芽花椰菜(ドラクエ4の女勇者の髪型) ③石刀柏(グリーンとホワイトがある)

◆全問正解の方(1名)に、赤米を進呈します。(正解者多数の場合は厳正な抽選により決定)

◆当選者された方には、ならやまで進呈するか、遠隔地の方には宅急便でお送りします。

◆応募方法は、メールor葉書(編集チーム・鈴木宛)でお願いします。

※ 応募締切は、9月5日(消印有効)

蝉の子を探し土掘る母子ふたり 古川祐司

抜け出た蝉の穴を教える母。蝉の子を探す幼な子。
母子の微笑ましい自然観察風景。

傘寿祝ぐ酒は「竜寿」に鯉料理 古川祐司

「のらの会」銘酒が並ぶ。作者も古稀を迎えご同慶の至り。
私への祝いの一句。アリガトサン。

干瓢干す白き簾もエゴになり 鈴木末一

原料はウリ科の夕顔。ヨルガオ、黄昏草とも。
里山の産物も剥けば夏の風物詩となる。

息こらへ干瓢剥く妻のかほ 鈴木末一

巨大なモノを剥くのは大変。良妻への優しさに
作者の表情が読み取れる。



自然俳句

監修 川井秀夫

朝まだき鋤ひとふりに蝉しぐれ 八木順一

早朝わが家の菜園で一仕事。
蝉の声に負けじと鋤を振る。絶唱には叶わぬか。

夕顔を剥けば里山軽くなり 川井秀夫

巨大な夕顔。作物のエネルギーに驚き。
干瓢にして早くダイエットしてくれー。

ほどほどが口癖となる猛暑かな 川井秀夫

夏のピーク。サマータイムの実施。熱中症のケア。
自己管理を十分に。そんなに張り切る齡じゃありませんぞ。

八月や魚も杖つくほどの照り 川井秀夫

産卵後のタナゴは元気かな。熱中症は大丈夫？
飼育関係者も杖が欲しくなるヨ。



夏ゆかば

谷川 萬太郎

深き山裾に拓がる山里の恵み育むたおやかな湖よ
湖面に描かれし青い空と夏風にゆらめく緑は麗しく
涼しげに水浴びした出で立ちで濡れた姿を覗かせる
乾く喉に容赦ない陽ざしは見えない星屑の光の悪戯か
まるで人の心を弄ぶかの様に欠片の薄情けもないのか



湖畔に身を寄せ木陰を頼りに暑さに耐え偲ぶ生き物よ
水辺に彩られた優美な自然の油絵は何処に姿を隠したのだろう
雨雲が季節の終わりをつげ辺りの音をかき消す様に雷鳴が近づく
やがて稲妻が走り瞬く中に消えたはずの夏模様が闇の彼方に浮かぶ
もう後には戻れないと言いたげに降りしきる夏の終わりの切ない雨

眼をやれば遠ざかる行き場のない夏雲の行方は何処だろう
いつの日か帰らざる河の流れに乗り新たな季節へと移り行く
想いで深い夏景色も明日を夢見て過去に消えゆく定めか
人は幾重にも自然の織りなす季節の姿に酔いしれたいのに
夏に疲れた山里にはもはや山彦さえも届かないのだろうか



「真夏の悪夢」



竹本 雅昭

親分（白マダラ蛇）：おい、トカ助ついてきな。
トカ助（カナヘビ）：へっ親分、何かええことあるんすか。

親分：お前な、いつも言うようにもうちょっとましな日本語喋れんか。夜明けに帰る途中、大木の上の方が騒々しかったんで、何かうまいもんにありつけるかもよ。

トカ助：ガッテンだ。ほなご一緒させていただきやす。

親分：おう、ここだここだ。昇るからついてきな。

トカ助：親分、落ちそうになったら尻尾つかんでもようござんすか。

～ 人の頭位まで昇る ～

親分：んっ？なんやこれは、木が腹巻しとるぞ。これ食えるんかな…。まてよちょっとおかしいぞ。蟻や小虫がようけ死んだり「シクシク」泣いたりしてるがな。

虫たち：ベタベタの鳥もちで身動きできませんのや。どうか助けてください。

親分：かわいそうに、わしらは体が大きいから大丈夫や、おいトカ助いくぞ。

トカ助：オウ！一、二、三、あれ～動かれへんがな、親分助けて！！

親分：あかんあかん、わしもこれ以上動けん。ウーン誰か助けて！！

～ 活動日 ～

人々：あらあらトラップ調査に、蛇まで二重のS字型で御陀仏してる。あわれ犠牲者よ、許せ。

小鳥たち：彼等のためにレクイエムを合唱しよう。

アーメン。





隠れ古社寺 ひとり旅②

歴史文化クラブ

川井秀夫

～興成・飯道・遠敷神社～

八月某日。二月堂周辺を歩いてみた。晴天暑い(この日、奈良地方は36.4℃、今夏の最高気温を記録)。修学旅行生も姿なく、欧米の観光客がチラホラ、二月堂・四月堂・開山堂など大伽藍も息をひそめて行む。今日は東大寺という巨大寺院を囲む鎮守社を訪ねてみた。

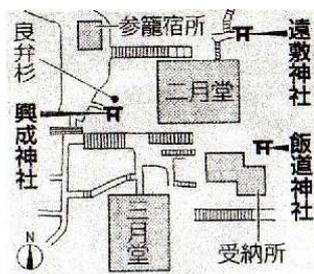
先ず興成神社。二月堂舞台下の斜面。良弁杉の横に春日造の社殿が鎮座する。小社と言うより祠と言った方が適切か。

神名帳には興成大菩薩と記され、コージョーダイボサと読む。とくに巻頭部分の興文・興成・興松・興明・興児・興叙・興進・興高の「興」のつく八社は八大菩薩と呼ばれ、現在六社が廃絶し二社しか現存しない。この社は空海勧請の伝承がある。

二月堂入り口を更に石段を上ると飯道神社がある。神名帳の二段目に記されイイミチノダイメヨウジンと読まれる。修二会を創始した実忠和尚の勧請と伝えられる。甲賀郡信楽町の飯道山に同名の神社がある。信楽は聖武天皇が遷都し、大仏造立を発願した場所。最後は遷都した奈良で鑄造されるのだが、二つの社が、どのように関わったのか興味がある。

二月堂の裏を通り抜けると、石段を上った高台に遠敷(おにゅう)神社が鎮座する。小入大明神(オニウノと読む)と神名帳にあり有名な説話がある。

若狭の国の遠敷明神が漁に出ていて二月堂に遅参、それを詫びて地元から清水を奈良へ送った際、白黒二羽の鶴が岩盤を破り飛び立ち、水が湧き出た場所が二月堂下の若狭井と言われている。



本尊の観世音菩薩に供えるため、年に一度その水を汲むのが「お水取り」の秘法で修二会の最も厳粛な行法とされる。

初日と最後に興成・飯道・遠敷三社を練行衆が巡拝し、厳格な作法で「惣神所(ソウシンシヨ)」と言う行事を行う。特に、満行感謝の惣神所は練行衆だけではなく徹夜の参拝者をも神秘的な世界へ誘い込む。



▲二月堂鎮守社のひとつ飯道神社

最後に三社の祭神を記しておこう。

興成社は山幸彦の後・豊玉姫、飯道社が火の神である軻遇実恵(カグツチ)。遠敷社が山幸彦(彦火火出見 ヒコホホデミ)となっている。

二月堂の高欄に立ち、大和平野を望見。遙か生駒山地の嶺々が鳳が翼を広げるように、北は男山、南は信貴山から八尾辺りまで、暫し時空を越えて悠久の自然と先人たちの残した歴史に、ひとときの夏を楽しむ一日であった。

高殿の観世音背ナに大和夏

次回は春日大社周辺の神々を訪ねます。

10月度歴史文クラブ

特別研修会

篝火のもと 古式ゆかしく 熱演される舞楽「翁舞」

奈良豆比古神社（ならづひこじんじゃ）の秋祭りの宵宮（10月8日夜）に、芸能史的に極めて貴重な「翁舞（おきなまい）」が奉納されます。能楽の原典といわれ、平成12年（2000年）12月27日に国、県の重要無形民俗文化財に指定されました。

現在の「翁舞」は、いわゆる式三番で、太夫（たゆう）、千歳（せんざい）、三番叟（さんばそう）、脇（わき）によって、天下泰平、国土安穩を祝い、神威にて氏子の繁栄と豊作を祈願する舞となっています。「翁舞保存会」の人たちによって演じられます。

歴史をたどりますと、「翁舞」は、8世紀、祭神春日王の病の平癒を王の皇子浄人（きよびと）



が祈願して、舞を奉納したのが起源といわれています。明治維新に至るまで歌舞音曲の神様として広く信仰され、芸能関係者が芸の向上を願ってよく訪れるということです。

「翁舞」で、特に古い形態を残しているのは、千歳と三番叟との問答です。三番叟が千歳に話

しかけると千歳が正面を向き、千歳が三番叟に話しかけると三番叟が正面を向くという、互いに向かい合うことのない問答で、神に語るといった形式を取っています。これは、「翁舞」独特の姿を示すものとして注目されています。三番叟と千歳の問答に、能狂言発達以前の古い形が残っています。



奈良豆比古神社は「延喜式神名帳（えんぎしきじんめいちょう）」に名を連ねる古い神社で、春日造りの三神殿が祀られています。祭神は、中央に、【産土（うぶすな）の神・平城津彦神（ならづひこじん）（奈良豆比古神）】、北側に、【志貴皇子（しきのみこ）・（田原天皇・春日宮天皇）】、南側に、【春日王（かすがおう・志貴皇子の子）】です。



舞を守る松岡嘉平治氏さんは、「翁舞は能の原点と言われる伝統芸能。但し、人に見せるためではなく、あくまでも神前のイベントです。」

「能とは異なり地域の神前で舞うことを基本に考えて、地域住民だけの力で守り続けていると言う事実。」このことを強調されています。



同神社に伝わる二十面の内、能面「癡見」は室町初期（応永20年・1413）の千草左衛門大夫作の銘をもつ最古のものである。

ならやま景観整備 & 情報BOX

◆ ならやま活動予定日 ◆

9月	6日(木) 27日(木)	13日(木)	20日(木)
10月	4日(木) 25日(木)	11日(木)	18日(木)

◆場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス：

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場 8：23発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場 8：33発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」で下車 徒歩7分



◆携行品など：弁当、飲み物、軍手
(作業用具は現地で用意)



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



◆連絡先：木村 裕



○日時：9月10日(月)午前9時集合
※夏時間は終わりました。ご注意ください。
◆集合場所：ならやま駐車場
○小雨決行：判断の難しい時は 担当者に・・・
◆連絡先：小田 菊川

歴史文化クラブ特別企画

奈良阪町の歴史と 奈良豆比古神社の翁舞ご案内

歴史文化クラブは10月の特別企画として、郷土歴史家による奈良阪町の歴史（講話）と、奈良豆比古神社の秋例祭宵宮の行事「翁舞」を観賞します。また、開始までの時間を利用して、自由参加形式で東大寺周辺の隠れ古社を訪ねることにいたします。クラブ会員の皆様のご参加をお待ちします。

なお、翁舞につきまして人数を予め把握いたしたいと思っておりますので、参加希望の方は、事務局（古川）までメール又はFaxでご一報ください。

(実施要領)

- 1, 東大寺寺域の隠れた古社を巡る。自由参加
 - ① 集 合：10月8日(月) 午後1時30分
近鉄奈良駅 行基菩薩像前
 - ② コース：川井さんの案内と解説

・二月堂周辺：興こうじょう成神社 ⇔ 飯いひみち道神社
⇔ 遠おにゆう敷神社

・大仏殿周辺：五百立いほだち神社 ⇔ 子安神社
巖島神社 ⇔ 辛口社(終了4時頃)

*バスで奈良豆比古神社へ
近鉄奈良駅バス②番乗場(駅前交番北側)
青山住宅行きに乗車
奈良阪下車(奈良阪南口の次)

- 2, 奈良阪町の歴史を聞く(ここから本番です)
 - ① 集 合：午後5時
奈良豆比古神社歴史資料館前
 - ② 郷土歴史家 村田昌三氏 講話約1時間
終了 午後6時の予定
(終了後、休憩と軽い夕食)

3, 奈良豆比古神社 翁舞鑑賞
(国指定重要民族文化財)

- ① 午後7時 集合・着座
- ② 【翁舞】 午後8時～9時
- ③ 解散

照会先：古川祐司



行事案内



9月例会 『秋の自然観察会』

10月例会予告

* 明日香のつる植物と案山子を訪ねて *

大和の展望台『龍王山』へ登る

高松塚古墳や古寺・石像物群などの世界遺産としての飛鳥。案山子やヒガンバナの季節の明日香には何度行ったよという方は沢山いらっしゃると思います。今回はヒガンバナを愛で、案山子さんにも突っ込みを入れつつ「つる植物を観察」という一味違った「あすか」を感じて頂こうと思っています。倉田さんが行けませんが平岡さんと小田が担当します。暑さも彼岸迄と申しますが、暑さ対策をしっかりとご用意下さい。

日時：9月25日(火) 10時～15時

集合：近鉄飛鳥駅前 午前10時

コース：高松塚古墳～稲淵

大和西大寺 8:38発(急) —

→ 橿原神宮 9:11着 → 9:30発(急) —

→ 飛鳥 9:34着

担当：平岡：0742-62-8460

小田：0742-49-0341

(自然教室チーム)



10月例会は軽登山です。城郭跡が残り大和平野を一望できる「龍王山」(585m)へ登ります。長岳寺山門横手から頂上(南城郭)を目指します。澄んだ秋空の下に広がる大和平野大パノラマを楽しみましょう。やや急なところがありますので、できれば軽登山靴(またはそれに準ずる靴)が必要です。

レインウエア必携です。

日時：10月23日(火) 9時～15時

集合：JR柳本駅前 午前9時

近鉄大和西大寺 8:05発 — 8:27近鉄天理着

→ JR天理 8:48発 — 8:54 JR柳本着

担当：塩本

寺田



11月例会予告

熊野三山と
丸山千枚田探訪



「伊勢に七度、熊野に三度」と言われ、伊勢に比べてやはり熊野は遠い遠い地であったようです。「伊勢参り」と同様に熊野詣は、生涯一度は訪れたい憧れの地であります。

人々がなぜ熊野を目指すのか、熊野三山をめぐり、いにしえの人々のように確かめてみようではありませんか。

そして、トロッコに乗り、源泉かけ流し熊野の秘湯で旅の疲れを癒やしませんか。

大型バスを利用します。正式なご案内と
申込受付等は、会報誌10月号に掲載します。

日程：11月12日(月)～13日(火)

宿泊：入鹿温泉ホテル「瀧流荘」

三重県熊野市紀和町小川口153

☎0597-97-1180

集合：近鉄大和八木駅南ロータリー

午前8時15分

【解散場所】近鉄大和八木駅南口

& 近鉄大和西大寺駅南口

行程

【第1日目】大和八木→R169→熊野市→R311→
→丸山千枚田→瀧流荘

【第2日目】瀧流荘→R168→熊野那智大社→
→新宮速玉大社→熊野本宮大社→

→谷瀬つり橋→大和八木→大和西大寺

* 紀和町ふるさと公社の方に千枚田の案内とガイド等をしていただきます。

* 費用：22,000円(予定)

平成24年・8月度 幹事会報告

- ◆日時：平成24年8月7日(火)
17:15~20:15
- ◆会場：中部公民館
- ◆出席者：幹事16名、顧問2名
- ◆案件：
 - ① 会員数 130名
 - ② 県の協賛行事(8/26)について
 - ③ 会計 勘定科目 小科目の変更
 - ④ 佐保自然の森の植樹祭について
 - ⑤ 平成25年新春講演会について
 - ⑥ 県からの委託地の確認と取り組み方
 - ⑦ その他

ペン画に寄せて 境 寛

風神雷神図では、俵屋宗達の筆となる屏風画が有名です。昔から、怖いもののたとえに「地震・雷・火事・親父」と言われますが、天災と親父が同列とは少し変ですね？じつは「親父」とは「台風」のことで、もともとこの「親父」は「大山風（おおやまじ）」でこれがなまって親父となったそうです。偉大な力を見せる天然現象のうち、最も身近に起こり得る代表的な強風と雷鳴とをそれぞれ神格化したものが風神雷神です。

今回は少しペンの趣を変えて、つまようじで描いてみました。今までの絵と微妙にタッチが変わっているはずですよ。

編集後記

◆ロンドン・オリンピックは、過去最高のメダル数を獲得。オリンピック・モード続行中、午前3時頃になると自然と目が覚めてきます。

◆メダリスト達が、数々の感動語録を発信してくれました。「夢は逃げない」「努力すれば夢が叶えられるとは限らない。しかし、努力しなければ夢は叶えられない」「最高の仲間と、最高の舞台上、最高の敵と」等々、いずれの言葉も感銘を覚えるものです。「頑張ろう日本」「感動をありがとう!!!!!!」

◆連日の猛暑にも関わらず、今年は、ならやまの活動日だけでなく、例会などにも、例年以上に参加者が増えています。「素晴らしい仲間と、素晴らしい舞台上、・・・」なのでしょう。

◆8月号の奈良学&難読野菜名クイズは、6名の方が正解され、8月9日のならやま活動日に公開抽選の結果、田中暉英さんが当選されました。岐阜県高山市丹生川町(旧大野郡丹生川村)の特産品・宿儺南瓜をゲットされました。次号からの当選者には、赤米「紅染めもち」を進呈します。(里山人)

申し合わせ事項



ならやま環境整備活動や野外行事は、前日午後7時前のNHK TV天気予報で、降水確率が午前60%以上の場合は中止になります!!



奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀憲

<http://www.naranature.com>



10月号の印刷・発送予定について

日時：平成24年9月26日(水)am9:00~

場所：奈良市ボランティアセンター

奈良市法蓮町1702-1 TEL0742-26-2270

※皆様方のご協力をお願いいたします。



会報誌[ネイチャーなら]編集チーム・代表

鈴木 未 一